

平成22年度 勝山高等学校 学校評価総合シート

現 状 と 課 題	本校では、各教科で研修会や公開授業を実施している。また教科によっては、模試等の結果を分析して、授業改善に努めている。教科指導は教育活動の基本であることから、より一層授業の充実を図ることが期待されている。 昨年度のアンケート結果では、1日の家庭学習時間が2時間以上の生徒が46.8%であった。家庭学習の充実がさらに求められる。
--------------	---

項 目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果	判定結果
学習指導	授業の充実と学習習慣の育成を図る。	①教科会等を中心に指導法を検討し、授業の充実を図る。	教科会等を中心に指導内容や方法を検討した。 (取組指標)	私は、自分の教科指導の内容や方法の検討を A 十分できた。 B おおむねできた。 C やや不十分な点があった。 D 不十分であった。	31人	教職員 A+B =74.2%
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上		6人 17 7 1	
			授業に意欲的に取り組んだ。 (成果指標)	授業への取り組みは A 意欲的だった。 B おおむね意欲的だった。 C やや消極的だった。 D 消極的だった。	440人	生徒 A+B =75.9%
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上		74人 260 98 8	

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果		
学習指導	授業の充実と学習習慣の育成を図る。	②家庭学習・自学自習の習慣化を図る。	家庭学習の内容・方法等を指導する。 (取組指標)	私は、具体的な課題（宿題・予復習等）を与えそのチェックをすることが A 十分できた。 B おおむねできた。 C やや不十分であった。 D ほとんどできなかった。	29人	41.4 % 48.3 6.94 3.4	教職員 A+B =89.7 %		
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上		12人				
			家庭学習にしっかり取り組んでいる。 (成果指標)		私は、宿題・予復習等の家庭学習を、自主的な放課後の学習も含めて A 1日3時間以上した。 B 1日2時間以上した。 C 1日1時間程度しかできなかった。 D ほとんどできなかった。			440人	14.1 % 25.5 41.6 18.9
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上					62人	
			家庭学習の状況を保護者の視点から把握する。 (満足度指標)	私は、子どもの家庭学習状況（自主的な放課後の学習を含む）に A 満足している。 B おおむね満足している。 C やや不満・不安を感じている。 D かなり不満・不安を感じている。	378人	18.1 % 30.7 40.2 19.5		生徒 A+B =39.6 %	
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上						63人
107	40.2 19.5	保護者 A+B =48.8 %							
140									
68									

学校評価総合シート

現 状と 課 題	全体としては落ち着いた状況にあり、特に大きな問題はないと考える。しかしその一方で、服装等の乱れが見られ、特に女子のスカート丈の長さについては、指導が必要になっている。
-------------	---

項 目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果	判定結果	
生徒指導	諸規定の遵守と生活習慣の確立を図る。	①きちんとした職業に就くための共通の指導的取組を継続する。 ②挨拶の習慣を身に付け、積極的に声掛けを行う。	服装指導に取り組む。 (取組指標)	教員室に生徒が入室する際および授業開始前に、服装が気になる生徒に対する注意指導を	3 2	教職員 A + B が 7 5.0 %	
			【目標指数】 A + B の合計が 7 0 % 以上	A その都度行った。 B だいたい行った。 C あまりしなかった。 D ほとんどしなかった。	4 2 0 7 1		12.5% 62.5% 21.9% 3.1%
			挨拶の指導に取り組む。 (取組指標)	私は挨拶指導について	3 3		教職員 A + B が 9 7.0 %
			【目標指数】 A + B の合計が 9 0 % 以上	A 自ら挨拶し、指導も積極的に行った。 B 自ら挨拶したが、指導は十分ではなかった。 C あまりしなかった。 D ほとんどしなかった。	1 4 1 8 1 0		
			服装を整えている。 (成果指標)	服装に関して先生から注意を受けたことは	4 4 0	生徒 A + B が 8 9.1 %	
			【目標指数】 A + B の合計が 7 0 % 以上	A ない。 B ほとんどない。 C 週に 2 ~ 3 回ある。 D 毎日のようにある。	2 3 3 1 5 9 4 4 4		
			友人、教職員、来訪者に挨拶をする。 (成果指標)	友人、教職員、来訪者への挨拶を	4 4 0		生徒 A + B が 8 9.7 %
			【目標指数】 A + B の合計が 9 0 % 以上	A いつも行った。 B だいたい行った。 C あまりしなかった。 D ほとんどしなかった。	1 5 2 2 4 3 3 9 6		
			子供は望ましい身なりができて いる。 (満足度指標)	子供の身なりは	3 4 9	保護者 A + B が 8 2.8 %	
			【目標指数】 A + B の合計が 7 0 % 以上	A いつもきちんとしていた。 B 概ねきちんとしていた。 C ときどき不十分であった。 D いつも不十分であった。	7 3 2 1 6 5 3 7		
			子供は挨拶がしっかりできて いる。 (満足度指標)	子供の挨拶は	3 4 9		保護者 A + B が 7 2.8 %
			【目標指数】 A + B の合計が 8 0 % 以上	A いつもきちんとしていた。 B 概ねきちんとしていた。 C ときどき不十分であった。 D いつも不十分であった。	7 2 1 8 2 8 0 1 5		

学校評価総合シート

現 状 と 課 題	<p>進路指導部独自の取組みだけでなく、学校全体の教育活動の中で進路に関する情報を提供し、進路について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者対象の進路ガイダンス（文理分け含む）、社会人からのアドバイス、就職ガイダンス、総合的な学習における学部学科調べ、職業調べなどを実施する。 ・授業、L T、S T、学年集会など様々な機会を捉え進路情報を提供する。 ・面接週間、個人面談、三者面談だけにとどまらず、日常の生徒とのふれあいの中で進路について考えさせている。 <p>今後、生徒の自己実現を一層図るために、進路情報を効果的に提供する必要がある。</p>
--------------	---

項 目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果	
					人数	%		
進路指導	自己理解を深め、自己実現に向けて主体的かつ適切に進路を選択する態度の育成を図る。	①自らの進路について考える機会の充実と進路情報の効果的な活用を図り、主体的かつ適切な進路選択を支援する。	進路について考えるための情報提供を積極的に行う。 (取組指標)	私は、情報提供を A：積極的に行った。 B：まあまあ行った。 C：あまり行わなかった。 D：ほとんど行わなかった。	人数	%	教職員 A+B= 7 7 %	
			【目標指数】 A+Bの合計が 85 %以上		1 0 1 4 6 1	3 2 % 4 5 % 1 9 % 3 %		
			面談等（進路に関する声かけ等を含む）をくり返し行う。 (取組指標)	私は、クラスの生徒一人あたりの面談（進路に関する声かけ等を含む）回数を A：1年間に7回以上行った B：1年間に6回行った。 C：1年間に5回行った。 D：1年間に4回行った。 ※年度末までの見込みで付けてください。	人数	%	教職員 A+B= 5 9 %	
			【目標指数】 A+Bの合計が 80 %以上		5 2 4 1	4 2 % 1 7 % 3 3 % 8 %		
私は、進路目標を明確に持ち、その目標達成のための努力を行うことができた。 (成果指標)	私は、進路目標を明確に持ち、その目標達成のための努力をすることができた。 A：積極的に行った。 B：まあまあ行った。 C：あまり行わなかった。 D：ほとんど行わなかった。	人数	%			生徒 A+B 1年 5 5 % 2年 5 5 % 3年 8 6 %		
【目標指数】 A+Bの合計が3年生は85%以上、2年生は65%以上、1年生は55%以上		1年 2年 3年	1年 2年 3年	1 9 6 4 5 3 1 2	1 9 6 1 5 7 8		4 2 8 2 1 9 2	1 3 1 3 3 5 8
子どもは、学年に応じた進路情報が提供され、進路を明確にするための取り組みが行われている。 (満足度指標)	進路に関する情報が A：十分に提供されている。 B：ほぼ提供されている。 C：やや情報が不足している。 D：情報が不足している。	人数	%			保護者 A+B= 7 8 %		
【目標指数】 A+Bの合計が 80 %以上		3 7 2 3 5 7 0 7	1 1 % 6 7 % 2 0 % 2 %					

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果				
進路指導	自己理解を深め、自己実現に向けて主体的かつ適切に進路を選択する態度の育成を図る。	②模擬試験等の結果分析を有効活用し、学力向上に努める。	模試の事前または事後指導を適切に行う。 (取組指標)	私は、模試の事前または事後指導を A：毎回行った。 B：だいたい行った。 C：あまり行わなかった。 D：ほとんど行わなかった。	人数	%	教職員 A+B= 77%				
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上		13	50%		7	27%	4	15%
			模試に備えて勉強し、返却された答案で復習を行う。 (成果指標)	私は模試に備えて勉強し、返却された答案で復習を A：毎回行った。 B：だいたい行った。 C：あまり行わなかった。 D：ほとんど行わなかった。	人数	%	生徒 A+B= 44%				
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上		41	9%		152	35%	191	43%
			子どもは、模試の結果から学力がついている。 (満足度指標)	子どもの学力が A：ついている。 B：まあまあついている。 C：あまりついていない。 D：ついていない。	人数	%	保護者 A+B= 62%				
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上		46	13%		172	49%	113	32%

学校評価総合シート

現 状 と 課 題	清掃については、日常清掃の他、外掃除（1学期1回）、大掃除（各学期末1回）、ワックスがけ（1・3学期各1回）を行っている。校舎内外の環境美化については、保健委員の協力も得ている。生徒自身が清掃活動に取り組んでいる意識は高く、清掃効果も徐々に上がりつつあるが、尚一層清掃環境を整える工夫を取り入れ清掃効果を高めたい。
--------------	---

項 目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果	判定結果			
保健管理	①校舎内外の環境を美化する自主性を養い、環境を整える態度や習慣を身に付けさせる。	①生徒とともに清掃活動に取り組み、学習環境の美化に努める。	清掃の役割分担を行い、生徒とともに清掃活動に取り組む。 (取組指標)	私は、清掃の役割分担を行い、生徒とともに清掃活動に	3 3		教職員 A + Bが 94.0% (昨86.8%)		
			【目標指数】 A + Bの合計が90%以上をめざす。	A：毎日取り組んでいる。	2 5	75.8%			
				B：週に3～4回取り組んでいる。	6	18.2%			
				C：週に1～2回取り組んでいる。	1	3.0%			
					D：ほとんど取り組んでいない。	1	3.0%		
			清掃活動に真面目に取り組んでいる。 (成果指標)	私は、校舎がきれいになるよう清掃に	4 4 0		生 徒 A + Bが 81.8% (昨83.2%)		
			【目標指数】 A + Bの合計が90%以上をめざす。	A：真面目に取り組んだ。	1 1 8	26.8%			
				B：おおむね真面目に取り組んでいる。	2 4 2	55.0%			
				C：あまり真面目に取り組んでいない。	7 2	16.4%			
					D：取り組んでいない。	8	1.8%		
			私は校内環境美化に心がけている。 (成果指標)	私は、学校の指定に従い、ゴミの分別に	4 4 0		生 徒 A + Bが 90.9% (昨93.7%)		
			【目標指数】 A + Bの合計が90%以上をめざす。	A：しっかり取り組んでいる。	2 6 0	59.1%			
	B：だいたい取り組んでいる。	1 4 0	31.8%						
	C：あまり取り組んでいない。	3 5	8.0%						
		D：ほとんど取り組んでいない。	5	1.1%					
学校は環境美化に取り組んでいる。 (満足度指標)	本校の環境美化への取り組みに	3 5 2		保護者 A + Bが 89.4% (昨89.2%)					
【目標指数】 A + Bの合計が90%以上をめざす。	A：十分満足している。	4 1	12.1%						
	B：おおむね満足している。	2 7 2	77.3%						
	C：あまり満足していない。	2 2	6.3%						
	D：満足していない。	5	1.4%						
	無回答：校舎内をよく見ていないからよく分からない	1 2	3.4%						

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果		
保健管理	②自ら心身の健康管理ができる人間の育成に努める。	②不登校やいじめの予防に取り組むなど、学校全体で支援体制の充実に努める。	支援を必要とする生徒への対応を学校全体で取り組む。 (取組指標)	私は、不登校やいじめの防止に	33		教職員		
				A：積極的に取り組んでいる。				9	27.3%
				B：おおむね取り組んでいる。				18	54.5%
				C：あまり取り組んでいない。				5	15.2%
				D：まったく取り組んでいない。				1	3.0%
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上をめざす。						A+Bが 81.8%
			教職員は、悩みや困ったことなどを相談しやすい環境づくりに努めている。 (成果指標)	私は、学校生活を心身ともに	440		生徒		
				A：健康的に送っている。				235	53.4%
				B：おおむね健康的に送っている。				170	38.6%
				C：あまり健康的に送っていない。				29	6.6%
				D：健康的に送っていない。				6	1.4%
			【目標指数】 A+Bの合計が70%以上をめざす。						A+Bが 92.0%
			子どもは、明るく充実した学校生活を送っている。 (満足度指標)	お子様は、学校生活を心身ともに	352		保護者		
				A：健康的に送っている。				166	47.2%
				B：おおむね健康的に送っている。				173	49.1%
C：あまり健康的に送っていない。	12	3.4%							
D：健康的に送っていない。	0	0%							
【目標指数】 A+Bの合計が70%以上をめざす。	無回答	1	0.3%			A+Bが 96.3%			

学校評価総合シート

現 状と 課 題	<p>本校のPTAは3つの専門委員会から構成され、各委員会が活発に活動を行っている。しかし、各種の広報活動が十分に伝わっていない場合もあり、時期に応じた情報の発信、配付物の徹底や活動参加への呼びかけ、保護者の理解・協力がさらに望まれる。</p> <p>本校の「朝読書」が10年目を迎え、当初より読書習慣がかなり定着し、落ち着いた雰囲気、一日が始まる。図書館利用については、貸し出し生徒の固定化がみられるので、図書利用における環境整備に努め、より多くの生徒が読書に親しめるようにする。</p>
-------------	---

項 目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果	
保護者との 連携	・保護者と学校との連携を深め、PTA活動の活性化を図る。	①諸活動の活動内容の収集と整理を行い、保護者への分かりやすい広報活動を行う。	PTA 活動の案内の配付を通じて、保護者に対して PTA 活動への参加を働きかける。 (取組指標)	私は保護者に対して PTA 活動への参加の働きかけを A：毎回行った。 B：おおむね行った。 C：あまり行わなかった。 D：ほとんど行わなかった。	30		教職員 A+B = 43.3 %	
			【目標指数】 A+Bが80%以上		7 6 12 5	23.3 % 20.0 % 40.0 % 16.7 %		
			PTA 活動の案内等を保護者に渡した。 (成果指標)	私は PTA 活動の案内等、学校からの配付物を保護者に A：すべて渡した。 B：大部分は渡した。 C：半分くらいは渡した。 D：ほとんど渡さなかった。	440			生徒 A+B = 71.6 %
			【目標指数】 A+Bが80%以上		150 165 83 42	34.1 % 37.5 % 18.9 % 9.6 %		
			PTA 活動の案内等、学校からの配付物に目を通した。 (満足度指標)	私は PTA 活動の案内等、学校からの配付物に A：すべて目を通した。 B：大部分は目を通した。 C：半分くらいは目を通した。 D：ほとんど目を通さなかった。	349		保護者 A+B = 66.5 %	
			【目標指数】 A+Bが80%以上		78 154 89 28	22.4 % 44.1 % 25.5 % 8.0 %		

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	アンケート結果		判定結果
図書指導	・読書に親しむ態度の育成と、読書習慣の確立を図る。	②図書利用における環境整備に努め、図書館や学級文庫を利用しやすくする。	朝読書の時間に参加・監督を行う。 (取組指標)	私は生徒とともに朝読書に A：毎回欠かさず参加または監督を行った。 B：週に3～4回は参加または監督を行った。 C：週に1～2回は参加または監督を行った。 D：あまり参加または監督ができなかった。 (自机で読書することを参加と定義する。)	30	40.0 %	教職員 A+B = 53.3 %
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上を目指す。		12		
			朝読書の時間は本をしっかりと読む。 (成果指標)	私は朝読書の時間に A：しっかりと読んでいる。 B：だいたい読んでいる。 C：あまり読んでいない。 D：違うことをしている。	440	45.2 %	生徒 A+B = 76.8 %
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上を目指す。		199		
			本校の図書館や学級文庫は利用しやすい。 (成果指標)	本校の図書館や学級文庫は、LH等の利用も含めて A：利用しやすい。 B：おおむね利用しやすい。 C：やや利用しにくい。 D：利用しにくい。	440	39.3 %	生徒 A+B = 76.6 %
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上を目指す。		173		
			本校の図書館や学級文庫は利用しやすい。 (成果指標)	本校の図書館や学級文庫は、LH等の利用も含めて A：利用しやすい。 B：おおむね利用しやすい。 C：やや利用しにくい。 D：利用しにくい。	32	59.4 %	教職員 A+B = 96.9 %
			【目標指数】 A+Bの合計が60%以上を目指す。		19		
子供は読書に親しんでいる。 (満足度指標)	あなたの家庭では子供の本を読む姿を A：よく見かける B：以前と比べると見かける C：時々見かける D：ほとんど見たことがない	349	18.9 %	保護者 A+B+C = 67.3 %			
【目標指数】 A+B+Cの合計が80%以上を目指す。		66			8.6 %		
				139	39.8 %		
				114	32.7 %		